

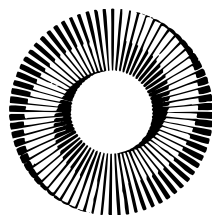


蛤御門

夏

禁門の変と京都御苑

山田 邦和



自然はわれらを われらは自然を

絶えまない人と自然の連携を象徴するメビウスの連環。これが息の長い活動が期待される自然保護のシンボルマークに表現されています。

発行人

〒602-0881 京都市上京区
京都御苑3番地
☎075-211-6364
一般財団法人 国民公園協会
京都御苑 加藤博之

編集

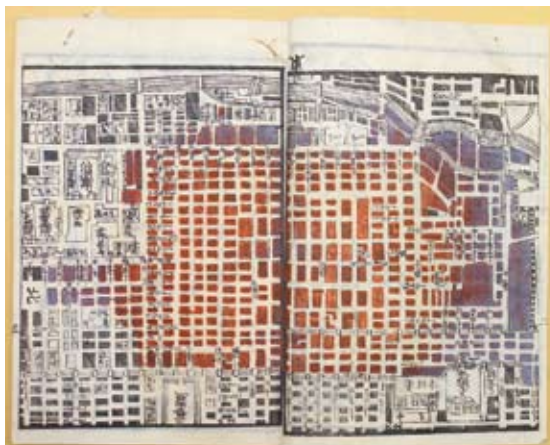
白川書院
監修
環境省京都御苑管理事務所

本紙は再生紙を使用しています。

京都の真ん中で生まれ育った私にとって、京都御苑は小さい頃から遊び場でした。子供の時、この広い御苑の芝生を、日が傾くまで飽きることなく走り回っていたことを思い出します。

しかし、京都御苑は単なる公園ではありません。そこには、京都の歴史のエッセンスが塗り込まれているのです。たとえば、御苑の西側の蛤御門や、堺町御門の北側の芝生の中に立つ「鷹司邸跡」の木碑を見てみましょう。私はその側を通りかかるたびに、今年から数えてちょうど百五十年前の元治元年（一八六四）七月十九日（現在の新暦では八月二十日に当たる）に勃発した禁門の変（蛤御門の変）のことを思い出します。これは、永い京都の歴史の中でも最大の苦難をもたらした事件だったのです。

その前年の文久三年（一八六三）までの京都の朝廷では長州藩（毛利家）が主導する尊王攘夷派が勢力を誇っていたのですが、これに危機感を抱いた幕府側の公武合体派は同年八月十八日に一挙



禁門の変の焼亡範囲（『洛中大火夢物語』山田邦和教授所蔵）



関白鷹司輔照邸跡

にクーデターをおこし、攘夷派の公家たちと長州藩の勢力を京都から追い落とすつもりで追いつめられた長州藩は、その翌年に、ついに起死回生の大逆転を狙った反撃に討つてきました。総勢三千人の大軍を進発させ、多方面から京都を包囲したのでした。それに対して、御所を守って長州軍を迎え討つのは、幕府、会津藩、桑名藩、薩摩藩などの連合軍でした。七月十九日、ついに戦いの火蓋が切られます。主戦場となつたのは、御所を取り囲む公家町の西端にある蛤御門。激戦の中、都の空には大砲や鉄砲の音が絶え間なく轟きま

門を突破して御所の前にまで迫ったのですが、薩摩の精鋭が迎え撃つにいたって形勢は逆転し、結果的にはこの戦いは長州軍の完敗によって幕を閉じたのでした。しかし、悲劇はそれにとどまりませんでした。敗走する長州軍とそれを追う幕府側連合軍は、蛤御門付近、親長州派とみなされてきた関白鷹司輔照の邸宅、そして河原町二条の長州藩邸などに火を放ったのです。そして、おりの北風にあおられることにより火災は京都市街へと広がり、ついには北は蛤御門、南は七条西は堀川、東は鴨川までいたる、当時の市街地の三分の二以上の範囲、実に二万七千軒のぼる家々が紅蓮の炎の中に呑み込まれていったのです。

二〇一四年三月二十一日、春うらら、早春の午後のひと時、白木蓮の清楚なつぼみを間近に眺め花桃のピンクの膨らみに歓声をあげながら梅の花が咲き誇る「梅林」を散策しました。ほのかに漂う甘い香りに包まれて満開の白梅紅梅を眺めていると、梅紅梅を眺めていると、車椅子の皆さんの顔にも梅の花と同じような明るい「笑顔」の花が咲きました。

新緑の若葉や草花の香りを感じながら野鳥のさえずりを聴き、トンボやチョウチョの舞を追う、足元の草むらに可愛いキノコやドングリを発見する……。「春夏秋冬」体全身で自然に触れる外出は「五感」にほど良い刺激を与え、心身ともに



4台の車椅子で「梅林」の梅の香りを楽しみつつ移動

何よりのリハビリ効果があるものとその「笑顔」は教えてくれます。

通称「御所」は私の少年期の遊び場でした。半世紀以前の御所は現在ほど整備がなされていなく子供にとっては一種の「冒険」遊びの魅力溢れる場でした。もちろん、当時の苑内で車椅子を見かけた記憶はありません。現在でも「御所」は砂利道で歩きにくい、車椅子でトイレが心配……。そのような外へ出る気力がうすれた……。また、ご家族の手を煩わしたくない……、などと個々に多様な悩みや諦めを抱えておられる方は少なくないと思います。そのような方々の苑



満開の白梅紅梅を眺めて車椅子ペースでゆっくり歩む

苑内のユニバーサルコースを巡る
車椅子で苑内の自然観察

佐野 修治

催事案内

■平成26年京都御苑自然教室

初心者の方を対象に自然教室を行います。夏の御苑の草花やキノコ、昆虫や鳥を観察しましょう。

夏の自然教室“夏の御苑にふれよう”

7月27日(日) 9:30~12:00

主催 環境省京都御苑管理事務所 TEL.075(211)6348
一般財団法人 国民公園協会 京都御苑 TEL.075(211)6364

講師 京都自然観察学習会の先生方に指導して頂きます。

集合場所 京都御苑 蛤御門前 (上京区京都御苑内西)

受付時間 当日 9:00~9:20

参加費 保険料100円

その他 筆記用具をご持参下さい。手持ちのルーペ、双眼鏡、図鑑などの観察用具があると便利です。



*以降の自然教室予定

秋の自然教室 平成26年 11月 16日(日) 9:30~12:00
冬の自然教室 平成27年 1月 25日(日) 9:30~12:00

夏のトンボ池一般公開

■自然生態系保全のため閉鎖している「トンボ池」を期間限定で一般公開します。期間中はスタッフによるミニ解説も行います。



8月1日(金)~3日(日)9:30~12:00

「閑院宮邸跡」見学

京都御苑南西角にある「閑院宮邸跡」の収納展示室では、京都御苑の歴史や自然の資料が展示されています。新たに整備された庭園と併せてご利用ください。

収納展示室 9:00 ~ 16:00(16:30閉館) 入場無料
休館日/月曜日(月曜日が祝祭日の場合は開館)、年末年始

御苑の花暦

和名	開花期	主に見られる場所
ナツツバキ	6月~7月	中立売御門東側、母と子の森周辺、染殿井周辺
アベリア	5月~11月	大宮・仙洞御所東側散策道沿い
サルスベリ	7月~9月	間ノ町口内、九條池周辺、建礼門前、寺町御門、等

会員募集

■年会費 ●普通会費 1,000円以上
●賛助会員(会社・団体) 10,000円以上

■本会員への特典

1. 本会発行物をそのつど送付します。(御苑ニュースは会費収入で発行されています。)
2. 葵祭、時代祭の招待券を進呈します。(ただし、普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。)

■申し込み、問い合わせ先

一般財団法人 国民公園協会 京都御苑
住所 京都市上京区京都御苑3
〒602-0881 TEL.075(211)6364



ミズイロオナガシジミと卵



アオバズク・南への準備期

御苑、六月に「夏の記」を始めよう。母と子の森ではミズイロオナガシジミを撮影しているが、この可憐で優雅な蝶との出会いはそんなに古くない。仲間内の情報網から「ミズイロオナガシジミがいます」と入ってきたのは一昨年だった。その夕刻、アオキの葉上に暮れようとすると静かな光波のなかで静止していた。久しぶりにZephyrus(西風)を感じた日であった。そう、私が子どもの頃はこの種の仲間の名前はゼフィルスだった。母と子の森も雑木林になってきたので、この蝶も生態回廊(生きものたちの道)を経て御苑に住み着いたのだろう。仲間のK先生は食樹のアベマキから白い小さな宝石細工のような卵を見つけて教えてくれる。雨上がりの御苑北に

はタマムシが歩き、お父さんは娘に「今日は良い日だ! 吉丁虫に出会えた」と喜ぶ。半夏の頃(七十二候の一つ)夏から十一日(目)、水を求めて、トンボ池ではモノサシトンボがハンゲシヨウの化粧具を測り、コオニヤンマなど各種も今の季節を謳歌する。鳥学者のN先生は、昨年は、はるかな南の国からのアオバズクがクスノキの枝に卵を産んだのは五月九日であると話されていた。二十六日、オスが見張りを始め、メスが抱卵

に入ったのだ。そして六月末から、八月半ば頃まで、食べ残し(食痕)が落ちる。今年はどうだろう。アオバズク君「やってこいよ!」今日も昼間は森のアオバズクは樹上で瞑想に耽っているかな? 森の枯木のキノコ、シワタケには二センチほどのヒメオビオオキノコと構造色の光を放つナガニジゴミムシダマシが自己組織化(生きものたちの時間的秩序)の世界を説明する。ウチワヤンマがサクラの樹上で毎日のように見張りをする。



センチコガネとアリ

クマゼミのあのシェシエという声が聞こえはじめる。「夏だ!」と思う。そう、セミたちは、誰もが少し違ったテンポで競うように謡う。アオスジアゲハのマリンブルーも夏の日に似合う。新参者のナガサキアゲハもすっかり御苑の蝶たちの仲間となつてしまった。



ヒメオビオオキノコ



ナガニジゴミムシダマシ

私が初めてトンボ池を見学させていただいたのは、七年前のことでした。学校の夏休みを利用して社会見学で、京都御苑内を通つてい

とにしました。門を入ってしばらく進むとテントがあり、係の方が話かけて下さいました。池の周りを案内していただけるかと聞き、是非にとお願いしました。お話をとても面白く、引率していた三年生の子どもたちもじつと聞き入っていました。特に、蓮の葉に留まるモリアオガエル(地域により天然記念物)を示されたときは大興奮。モノサシトンボには一同びっくり。知らず知らずのうちに自分たちも必死で探すようになっていました。普段は立ち入りが制限されているからこそ、色々な生き物が守られる機会に観察できるのだな、と感じ入りました。以来、社会見学でも度々伺い、そして家族でも訪れるようになりました。公園での遊び、運動、散歩、お弁当を携えてのピクニック、葵祭、時代祭など四季折々の風物詩...、京都御苑の魅力は実に多彩です。同様にトンボ池も様々な生き物に彩られ、何度訪問しても飽きることがありません。今年の公開も、クラス一同、そして家族一同楽しみに待っています。

「苑内利用者の声」**トンボ池一般公開**
今年も楽しみにしています
遠藤 克哉



解説に聞き入るノートルダム学院小学校のみなさん

ノートルダム学院 小学校教諭)